



西高生の才能爆発！「第70回鳳凰祭」



6月22日、23日にYCC 県民文化ホールで第70回鳳凰祭が開催されました。新型コロナウイルス感染防止のため多くの制限がある中でしたが、2日間実施することができ本当に良かったと思います。

今回の鳳凰祭は準備期間から書道部や美術部のパフォーマンスをはじめ文化局展示が校内を彩りました。鳳凰祭当日の文化ホールのステージでは箏曲部や音楽部、吹奏楽部の演奏や茶道部のお点前披露(ステージ披露は鳳凰祭初?)や演劇部の発表、そして最後はダンス部の熱いパフォーマンスと西高生の多才さが如何なく発揮されました。さらに二年次対抗の息の合ったユーモア溢れるダンス、三年次対抗のメッセージ性豊かな演劇と迫真の演技は心を大きく揺さぶられる素晴らしいものでした。

一年次生は初めての鳳凰祭で、年次対抗種目も鳳凰祭初となる「(リコーダー以外)既製楽器を使わない演奏発表」でした。前例のない演目でしたが、各クラスとも試行錯誤しながら趣向を凝らした演奏をしてくれました。私は準備のすべてを見ていたわけではありませんでしたが、本番前週のリハーサルではどのクラスもほとんど何もできず、そして当日午前中の文化ホールステージのリハーサルでも(当初の予定とは設定が変更になる事態もありましたが)これで本当に大丈夫か?と感じるものでした。しかし、その心配を裏切り、本番の演奏では各クラスの特長が発揮された素晴らしい演奏で、西高生の対応力の高さがうかがえました。文化ホールの大ステージに初めて立ち、緊張して力が発揮できなかった人もいたと思いますが、来年そして再来年のために良い経験になったことと思います。

この鳳凰祭を通して、西高生の多才さを実感した人は多かったでしょう。そしてひとつの目標に向けて、他を尊重しながら協力することのできる集団であることも感じたと思います。この仲間とともに勉強や部活動に励み、個々の目標実現に向けて日々切磋琢磨してくれることを大いに期待します！
1年次主任 平岩岳実

～7月行事予定～

日	曜日	A/B	予 定	日	曜日	A/B	予 定
1	木	A	夏服期間(～8/31) 交通事故・違反「0」3か月運動	17	土		
2	金	行事	学びの基礎診断(ベネッセ総合学力テスト)	18	日		
3	土			19	月	B	三者懇談 短縮45分授業
4	日			20	火	B	三者懇談 短縮45分授業
5	月	B	きずなの日	21	水	行事	休業前集会 報告会 生徒会役員選挙認証式 大掃除
6	火	B		22	木		海の日
7	水	B		23	金		スポーツの日
8	木	B		24	土		
9	金	B	立会演説会 大掃除 短縮50分授業	25	日		
10	土		教員採用試験会場準備	26	月		夏季休業開始 夏季集中学習会
11	日		教員採用試験会場	27	火		夏季集中学習会
12	月	A	きずなの日 生徒会役員選挙投票	28	水		夏季特別課外(～8/2)
13	火	A	三者懇談(～7/20) 短縮45分授業	29	木		
14	水	A	三者懇談 短縮45分授業	30	金		
15	木	A	三者懇談 短縮45分授業	31	土		
16	金	A	三者懇談 短縮45分授業	1	日		

保護者のみなさまへ

先日はIB保護者合同ガイダンスのご参加および、リモート形式での進路ガイダンスに多くの保護者の皆様にご視聴いただき、ありがとうございました。例年ならば、授業参観や鳳凰祭でのご来校もしていただけたところですが、新型コロナ感染防止の観点から実施できず心苦しく思います。西高での学校活動が保護者の皆様の身近に感じられるようこれからも尽力していきたいと思っておりますので、何かご相談などありましたら、気兼ねなくご連絡いただければ幸いです。

過日通知しました通り、今月は三者懇談を予定しております。第1回定期試験が返却され、思うような結果が得られず不安を抱えている生徒が散見されます。また「スマートフォンの使い方が心配」や「課題に追われ睡眠時間がしっかりとれていない」といった生活面の相談もいただいております。限られた時間ではありますが、今回の三者懇談を通してご子弟が前向きに西高生活を送れる一助となれば幸いです。

7月12日LHRで講演会「社会で活躍する卒業生の話聞く」を行います！

社会で活躍している西高卒業生をお招きし、ZOOMにて講演会を行います。講演会を実施するにあたり、講師の紹介を兼ねて、山日新聞に掲載された記事と講師からのメッセージを紹介します。ちなみに私(平岩)が西高に赴任したばかりの頃担当した生徒です。とても明るく何事にも前向きな生徒でした。

山日新聞 2021.3.8 国際女性デー特集記事より

皆さんはじめまして！2008年度卒業生の古屋桃香と申します。

西高を卒業してはや10年以上、いまは文部科学省で仕事をしています。

...

「学年だより」に載せていただくに当たり、高校1年生のころを思い出していました。

高1の前期と言えば、ただただ中学とのレベルの違いに絶望し、挫折を味わっていたような気がします。

医学部に行きたくて西高の門を叩いた私ですが、因数分解で早々につまづき、再テストを繰り返し受ける日々でした。

そこに追い打ちをかけるように当時の数学の先生（※平岩先生ではありません）に

「医学部に行きたいやつは高1の夏休みに数IAを終わらせるくらいの気持ちでやるんだぞ！」と言われ、医学部は無理だ、理系に進学するのは諦めよう、と思ったことを今でもよく覚えています。

...

いま、そのときの私に声をかけるなら…「諦めるには早すぎる」かなあ。

それとも、「今の道も楽しいよ！」かなあ。悩ましいですね。

10何年前の自分を思い出しながら、皆さんとどんな話をするか、考えたいと思います。

（リモートですが）お会いできるのを楽しみにしています。よろしくをお願いします。



文科省勤務・古屋桃香さん 歩むべき場所答え探して

「18歳になったら自立し、実家を出て1人暮らしをする」。父親との約束もあり、大学進学と同時に将来の職業を意識したのは、幼稚園教諭の免許を取得するための教育実習だった。「子どもたちは日々成長し、今日、明日に希望を持っている。希望を絶やさず健やかに育てていく手助けができれば」。そんな思いから文部科学省を志した。

現在、文科省初等中等教育局に所属し、中教審による小中高校教育のふるや・ももかさん 甲州市出身。2015年に文部科学省に入省。30歳。

在り方に関する答申の取りまとめなどを担当。制度設計に関わる業務にやりがいを感じ、「東京でなければできない仕事」だとも思う。

ただ、最近自身を人生を見つめ直す機会に直面した。昨年、父は祖父をみとり、8月には体調を崩した母親に毎週末会いに帰った。「まだしばらくは東京で仕事したい。でも、家族のそばにいたい」。親の老後を意識し、家族との距離感に思い悩むことが増えた。

子育てする地元の友人の近況をSNSで見て、少し先の未来を想像する。職場では男性も女性も対等に仕事をしているが、妊娠・出産の時期には身体的制限がある。「育児や介護は女性の仕事」「家庭が仕事か二者択一」といった思考に違和感を覚えつつも、「社会が求める役割意識や旧来の価値観に自分自身も縛られているからこそ、育児や介護を自分の役割のように感じ、どうしたらいいのか悩んでいるのかもしれない」。

子育てや介護などのライフイベントで女性が影響を受けやすい現状は、これから変わっていくべきことだとも思う。ただ、どこで暮らすかのようにキャリアを積んで歩むのか、答えは容易に見つかりそうにな